

## 『当院における気管気管支結核症例の臨床的検討』 に関する患者様、ご家族の皆様方へ

当院では、『当院における気管気管支結核症例の臨床的検討』という調査、研究を行っています。気管気管支結核は排菌量が多く、周囲への感染リスクが高い疾患ですが典型的な肺結核を疑う胸部レントゲン画像を呈さず、気管支炎・気管支喘息などの診断で治療が行われ、しばしば診断に遅れが生じることがあります。また治療後にも癒痕はんこんによる狭窄きょうさくが残存し、外科的治療や内視鏡的処置が必要となる症例が報告されています。気管気管支結核の臨床像を調査することにより今後の診療に役立てていくことがこの研究の目的となります。

\* 癒痕はんこん : 切り傷・やけど・潰瘍（かいよう）などが治った後に残る傷あと  
<調査の対象となる患者さま>

2005年1月から2014年4月までに、近畿中央胸部疾患センターで気管支結核と診断された患者様を対象といたします。

### <調査方法>

患者様のカルテの記録を参照いたします。

### <患者さまのプライバシーに関して>

プライバシー・個人情報厳重に守られます。お名前、生年月日など患者さまを特定できる情報が外に出ることは決してありません。

\*この臨床研究に関してご不明な点がある場合、もしくは研究にカルテ情報を利用することにご了解いただけない場合は以下に示す本調査の研究代表者までお問い合わせ下さい。尚、その場合においても患者さんが診療上不利益をこうむることは一切ありません。

〒591-8555 大阪府堺市北区長曾根町 1180

国立病院機構近畿中央胸部疾患センター

内科 前倉 俊也

TEL: 072-252-3021, FAX: 072-251-2153

なおこの調査は病院外の専門家の方を含んだ近畿中央胸部疾患センター臨床試験審査委員会（IRB）における厳重な審査・承認をうけて実施しています。

（当院ホームページに掲載）